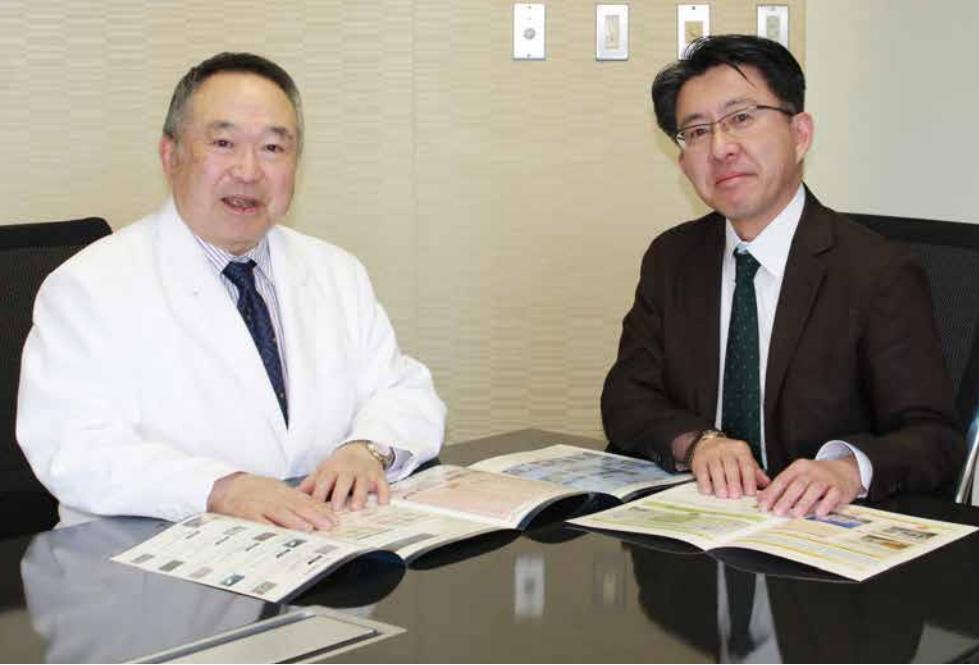


医療法人陽心会プレゼンツヘルシーセッション

福島県民の大きな励みと誇りに。



竹之下 誠一 × 家村 俊一郎

いえむら しゅんいちろう

公立大学法人 福島県立医科大学 医療-産業トランクショナリサーチセンター副センター長
1965年、鹿児島県生まれ、91年に鹿児島大学大学院農学生物研究科修了。(独)産業技術総合研究所主任研究員を経て、2012年に福島県立医科大学 医療-産業トランクショナリサーチセンター教授。16年より現職。

今回は、福島県で医療と産業界をつなぐ取り組みを行っているお2人の登場です。福島の復興・創生を目指しながら、新型コロナウイルスに関する研究も進めています。

竹之下 造血管腫瘍、いわゆる白血病関係の腫瘍モデルの種類は世界でもトップクラスです。タンパク質マイクロアレイはTRセンター独自の技術で、がん、自己免疫疾患、感染症などに関連した抗体の解析に役立つと期待されています。

家村 はい、おかげさまで各分野で世界的にも高い評価をいただいております。

新型コロナウイルスに関する研究開発も加速

竹之下 昨年末から新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が世界的に猛威を振るっています。感染症に関わる取り組みについてはいかがでしょう。

家村 新型コロナウイルスは未だワクチンも治療薬もできておりません。世界中の研究機関がその開発に取り組んでいます。本学・TRセンターでは、タンパク質マイクロアレイ技術などを用いて、診断薬や治療薬に活用できる感染症に関する抗体の取得を行ってきました。新型コロナウイルスについても、関係機関と連携して研究開発に必要な生体試料の収集に努めるとともに、学内の研究体制や研究計画を整え、対応を開始しているところです。

竹之下 国立感染症研究所が新型コロナウイルスを分離して国内外の研究機関に提供しており、本学にもヒトへ感染性がない状態で提供いただきました。関係する研究機関と連携して、研究開発を加速したいと考えています。その際に、先ほど説明のあつたTRセンターが有するタンパク質マイクロアレイ技術などが大いに役立つと期待しております。

財団設立を通して福島の復興に貢献

竹之下 TRセンターからはベンチャー企業が次々に生まれ、また今年2月には「一般財団法人福島医大トランスレーショナルリサーチ機構」(福島TR財団)が設立されました。このような動きは、今後どのように展開していくのですか。

家村 TRセンターでは、新たな医薬品関連産業の創出・集積に貢献することを目指し、全国から集まつたスタッフが福島の地に定着できるよう、TRセンター発ベンチャー等の設立も促進しております。すでに3社が独立し、センターと連携して事業を進めています。私自身、在職のまま福島TR財團を立ち上げ、その理事長を兼ねています。

福島TR財団の設立により、TRセンターとさらに緊密な連携関係を構築しつつ、研究成果の産業界への橋渡しを一層推進していくことがあります。具体的にはTRセンターの研究成果データベースを活用し、当該データの活用を希望する企業などがアクセス可能となるような会員制サービスを展開する予定にしています。財団・TRセンター・ベンチャー企業が連携して、医薬品関連産業の創出・集積を支援し、福島の復興に貢献していくきます。

竹之下 各ベンチャー企業には「福島医大発ベンチャー」の称号を私から授与し、TRセンター内の部屋や機器を貸し出して、その貸付料も減免するなど、手厚い支援を行っています。家村教授の財団には、TRセンターの研究成果の橋渡し役とともに、各ベ

ンチャー企業のとりまとめ役も果たしています。

ただきたいと思っています。東日本大震災と原発事故により、福島は大きなマイナスイメージからスタートすることになります。まだその道は半ばですが、マイナスをゼロにするという発想だけでは「復興・創生」につながりません。これからはむしろプラスを生む、新たな価値を生み出すという挑戦を繰り返し、成果を出していくことが必要です。本学に課せられた使命を思うとき、TRセンターのさまざまな取り組みと成果は本学のみならず、福島県民にとつても大きな励みと誇りにできるものでないかと考えます。家村教授はじめセンタースタッフの活躍を期待しています。本日はありがとうございました。

家村 こちらこそありがとうございました。

ただきたいと思っています。東日本大震災と原発事故により、福島は大きなマイナスイメージからスタートすることになります。まだその道は半ばですが、マイナスをゼロにするという発想だけでは「復興・創生」につながりません。これからはむしろプラスを生む、新たな価値を生み出すという挑戦を繰り返し、成果を出していくことが必要です。本学に課せられた使命を思うとき、TRセンターのさまざまな取り組みと成果は本学のみならず、福島県民にとつても大きな励みと誇りにできるものでないかと考えます。家村教授はじめセンタースタッフの活躍を期待しています。本日はありがとうございました。

竹之下 九州地方をはじめ、全国から優秀なスタッフが集まつてもらいましたね。また、高グレードの細胞保管施設は、大学施設と副センター長を務めています。バイオや遺伝子解析関係の6部門・3支援室に合計66名のスタッフが、2016年に整備された最先端の拠点施設で研究に取り組んでいます。具体的には、各種解析データを統合解析し、多面的な視点から血液や疾患組織などの生体試料を評価する「生体分子プロファイリング部門」、各種解析のために生体試料の加工・処理を行う「ティッシュファクトリー部門」、新規培養細胞を作製し、それを用いて医薬品の薬効・毒性評価を行う「セルファクトリー部門」、生体試料における核酸塩基配列情報の体系的取得・解析を行うことで各

種疾患患者における遺伝子配列の変化を調べる「ジーンファクトリー部門」、生体試料のタンパク質発現量をタンパク質マイクロアレイで調べる「プロテインファクトリー部門」抗がん剤評価のために担がんマウスの作製・維持、ラットを用いて各種薬剤・化物質の安全性評価試験を行うと共に、各種病態モデル動物の評価を行う「リサーチモデルファクトリー部門」から構成されています。また、それらの事業をサポートするため3つの支援室も設置しています。

竹之下 九州地方をはじめ、全国から優秀なスタッフが集まつてもらいましたね。また、高グレードの細胞保管施設は、大学施設と副センター長を務めています。バイオや遺伝子解析関係の6部門・3支援室に合計66名のスタッフが、2016年に整備された最先端の拠点施設で研究に取り組んでいます。具体的には、各種解析データを統合解析し、多面的な視点から血液や疾患組織などの生体試料を評価する「生体分子プロファイリング部門」、各種解析のために生体試料の加工・処理を行う「ティッシュファクトリー部門」、新規培養細胞を作製し、それを用いて医薬品の薬効・毒性評価を行う「セルファクトリー部門」、生体試料における核酸塩基配列情報の体系的取得・解析を行うことで各

種疾患患者における遺伝子配列の変化を調べる「ジーンファクトリー部門」、生体試料のタンパク質発現量をタンパク質マイクロアレイで調べる「プロテインファクトリー部門」抗がん剤評価のために担がんマウスの作製・維持、ラットを用いて各種薬剤・化物質の安全性評